

<講演要旨> ※無断転載を禁じます

『総義歯の Art and Science』

小林賢一

今回の講演では、義歯修理と下顎総義歯の印象採得について解説します。

1. チェアサイドでの応急処置-義歯修理

義歯の修理には絶対に正しいという方法はなく、いろいろな方法があります。もちろん、技術および知識の習得も必要ですが、今回示すような典型的な修理のパターンを知ることで、義歯修理が以前よりはるかに容易となり、さらに患者の信頼を得ることが可能になります。義歯の修理自体は、通常、義歯の破折、人口歯の脱離などを生じた場合に行います。

しかし、歯周病や根尖病巣の悪化などにより、広範囲な抜歯が必要となった場合の修理もあり、このようなときには、抜歯に先立って修理計画を考え、義歯のない状態をつくらないことが患者の審美性およびQOLの視点から大変重要です。また、他医院で抜歯した患者が来院した場合、義歯をチェアサイドで速やかに修理することは、自医院の患者との信頼関係や評判にも大きく関係します。

直接法による少数歯の人口歯増歯から、チェアサイドでも可能な間接法による大規模な義歯修理について、わかりやすく写真を中心に解説します。なお、修理術式はできるだけフローチャート化するなど工夫をこらしました。

2. 下顎総義歯の形をイメージするために必要な解剖学的・生理学的根拠

一般に総義歯の印象は困難なものと考えられています。特に、下顎は上顎に比べ、難しいと言われております。これは、上顎の場合は、筋の付着を超えないように義歯床縁を設定するのに対し、下顎では、筋の付着を越えて設定しなければならないことに由来します。すなわち、上顎では、impression taking でそこその印象が採得可能となりますが、下顎では、impression making を行わなければ、正しい床外形を設定することができないということです。また、下顎の床外形は、筋の付着を越えることにより、ある一定の形、すなわち普遍的形態を呈することとなります。

このような総義歯の普遍的形態を印象採得時にどのようにして求めたらよいか、解剖学、生理学的根拠について解説し、最後に仕上げ印象材としてのシリコーン印象材による印象法を紹介しました。このシリコーン印象法の特徴は、利点として下顎舌側フレンジの印象に最適ですが、唇頬側および上顎の印象には注意が必要となります。

それは、印象材の特性から、周囲軟組織の変位、変形させ、さらに印象辺縁の overextension を生じやすくなるからです。

私の講演が、総義歯、特に義歯修理をこれから学ぼうとする先生方にとって、修理計画の立案や修理のノウハウを理解、習得するのにお役に立てば幸いです。